心持について

宮本百合子

青空文庫

或瞬間（思い出）

正午のサイレンが鳴ってよほど経つ
　少し空腹
工事場でのこぎりの音
　せわしい技巧的なななめらかな小鳥のさえずり、いかにも籠の
小鳥らしい美しさで鳴く
とつぜん　ガランガランと
　豆屋のベルの音がした。
そして私は思い出した。刑務所の
さむい朝と　夜とを、
　主として夜を
その音が　どっか遠くで順々にきこえ
いつも最後に女舎で鳴り、机をたたんで床（とこ）をしいたのを。
　今も宮がその音で床をしいているのを、
　彼の眉としまった　少しへの字にした口許とを

Ｏｂａｐａ の気持

何だか宙で一つぐるんとぶんまわって　自分の体の上下がわから
なくなったような　自分のこの社会におけるあり場所がわからなく
なった感じ。
　嘔気の出る感じ。

夜ふけのローソク

スエ子が、
　ふっとふき消した、のにベッドのシーツのところが一部分白く、
硝子もあかるく見えている。月がさしているようで、雨の音がして
いるのに　思わず目を上へやって見る、すると黒い幕を下からスッ
と急に上げたように四辺が真暗くなる、もう何も見えない。その瞬
間の錯綜と或美しさ。

手紙の重み

ヒョータン形の郵便の目方はかりではかりつつ
「実際こんな手紙に　六銭はんなけゃならないなんて　癪だわ」

見て知らん振

銀座　雨もよい weekday の午後一時すぎ　むこうから特長のあ
る石川湧の鳥打帽　タバコをふかしつつ　コバルト色のコート　傘
の若い女と並んで歩いて来る、女私の前を通すぎるとき　傘を傾け
て顔をかくしてしまう　湧　煙草をふかし　こっちを見、しかし
知らぬものを見ているように見て通りすぎてしまう。
　朝　ロク　洗面所で
「この頃　＊＊人（ジン）が　石川湧にフランス語を習ってるんだって」
「フーム」
「唯ケンを出てしまったんだってね　盛ニユイケンのわる口　云っ

てたそうだ」
「こわくなってやめたんだろう　この頃狙われてるから」
「ナカナカ悧口だって云ってた」
「ふむ　それがね　どうも……」
あの若い女のひとと彼とのこと
その彼ときょうの女とのこと　いろいろ

○彼女が身のまわりに持っている雰囲気の中には常にある爽やかさがあった。
それが生活の或時期では健康さと芸術に対する野心から
次の時期には単純であるが確信に満ちたガンばりから
そして最近それは度々の鍛練によって引しまりやきがはいり、
ばねはつよく正確になって、落付きしかも一層澄みとおったような爽やかさとなって来たのを○子は感じた。

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集　第十八巻」新日本出版社
1981（昭和56）年5月30日初版発行
1986（昭和61）年3月20日第2版第1刷発行
初出：同上
※「＊」は不明字。
入力：柴田卓治
校正：磐余彦
2004年2月15日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

心持について

宮本百合子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/